

(一)組織の維持

- ・この十年で十八郡市から九郡市に組織の縮小
- ・今春の「脱退」郡市の件

(二)組織強化

- ・今春三月末退職者への対応(含む県単独会員)
- ・過年度退職未加入者への対応、積極的な取り組み
- (三)広報(会報)活動
- ・目下、全会員共通の広場
- ・原稿が集まりにくい！(県広報「薄墨年二回発行」)

(四)地域社会、学校教育への振興、貢献

- ・「教頭職経験者」こそ其の具体を模索 (七と重なる)
- (五)他団体との連携
- ・現役「岐阜県小中教頭会」との連携(新会員獲得と協力金の工夫)

- ・教職員互助会の事業等の活用(研修親睦旅行、福祉補助事業)

(六)福利厚生

- ・物故会員への礼詞、弔電等の真心こもった対応
- ・八十歳会員お祝い「湯呑、御猪口」
- ・趣味・特技等の交流の工夫(九十歳からの手習い)
- (七)研修活動の工夫

- ・メインの「生き甲斐活動(四つの中で宝物の獲得)親睦会の場合、出会いの場合、連帯感の場合、絆の場合
- ・「老人会」などの諸団体と異にする教頭職経験者を踏まえた研修活動(学校現場の教師・子どもに役立つ活動：例道徳、英語、詩吟、論語等出前講義等)

(八)全退教への要望事項

- ・「叙位叙勲」に匹敵する功労・慰労の工夫を！
- ・全公退代議員大会への補助はいかが！

(九)その他

・叙勲要請活動

県代議員決定事項「叙勲活動」をしないが、全国の活動を見守ることからの具体的行動のキャッチ
・定例役員会等の内容の工夫 老齢会員と若年齢会員との意志疎通の妙案・具体案の模索
以上

参考例文

平成二八年度末 教頭退職の先生

入会のお勧め

ご退職おめでとうございます。既に、ご入会いただきました方には、失礼かと存じますが、さらに、仲間をお誘い願えればと思うものです。只今、未加入の先生は、是非、ご入会いただけますようご案内申し上げます。

退職してほつとされえた今は、働いているので耳を傾けたくないと思われれることでしょう。しかし、既に退職された教頭先生方との「ふれあい」で、「生き甲斐」の発見となり、「学び」の良い機会となり、「充実した人生になる」と確信いたしております。

そこで、会合や行事への参加が難しい方のことを配慮し、「情報交換」を工夫し、実り多い日々にして頂けるよう考えます。そして、ゆとりを持たれた時の準備を今からと、役員さんが献身的な愛行で具体的に提示をさせていただきます。

昨今の教育界の風あたりの厳しさとか教育実践の大変さは、現役の教頭先生方には、本当にご苦労さまと申し上げたいです。今春、ご退職のあなた様のご勤務時代もほんとうに大変だったようです。校長を補佐する重責ある教頭職、新しい教育課題等に意欲的に対応、とてつもない厳しい教育現場、でのご実践とご苦勞の上、立派に職責を全うされてのご退職だったと伺っております。

ほんとうにお疲れさまでした、ご苦労さまでした。やはり、この退職会が、現場の教頭先生の一助になればと痛切に思うものです。

この春、ご退職で未加入の教頭先生方に、今一度お願い申し上げます。

本会の趣旨は、「同じ職責にいて労苦を共にした者が、各地域ごとに、「退職後の親睦を図る会」としていただきます。

生き甲斐活動の交流、地域貢献活動の情報交換、地域とともにある学校現場への応援、更には、趣味・特技等を広げられる場づくりを願っています。皆様が、「気楽に参加できる団体」「絆づくり・仲間作りの教頭経験者の会」を目指しています。

只今、「地区退職教頭会」(あなた様のお住まい場所とか、退職された学校の場合)か、組織がない地域の場合は「県公立学校退職教頭会事務局」のいずれから、ご勧誘を展開いたしております。どうぞ、退職された新鮮な今というこの機会に、ご入会賜りますようお願い申し上げます。お声がかかりましたら、よろしくお願い申し上げます。では、あなた様の益々のご健康とご発展を心からお祈り申し上げます。

岐阜県公立学校退職教頭会会長

この例文は、各県での「入会のお勧め」の参考にしていただければと考えて掲載いたしました。

静岡県

会長

(一)組織拡充・強化策

- ・会合の折り、加入者の状況を報告。説得力のある勧誘の方策に知恵を絞る。

・新退職者へは、新聞発表後、本人宛てお誘いの文書を送付したり、手渡ししたりする。

・過年度退職者には、年令の近い人や知人関係から接触している。

・現職教頭理事会に資料をもつて出向き、退職教頭会の存在や経過、目指すもの、現状等を知らせ、加入の勧めをおこなった。

・以前から年間計画の中に、現退一致の活動を位置付け、実施している支部があり、新人獲得がスムーズにいつている。他の支部も影響を受け、動きだしてきた。

(二) 会報

・県会報「静朋」の発行は予算の関係で、これまで二回の発行が一回となった。従って盛り込む内容、ページ数、発行時期等再検討している。一回の発行で、会報の役割、会員との連携など損ねることのないよう留意し、更に充実したものにしていきたい。

・県が一回になった分、各地区では手作り会報を盛んにしていくよう呼び掛けている。

(三) 福利厚生

・県全体としては、隔年による「生きがい展」(作品展・趣味、その他の発表の場)を実施。全国会報六二号で紹介済。

・各地区では交流会、旅行、ハイキング、物作り会、観劇会・・・など事情に合わせて工夫している。

(四) 叙勲要請活動

・平成二十七年より地区会員全員の署名を添えて、県教育委員会へ要請している。

・進展はないが、県教委も、障害の壁の高さに難を抱いていた。

・平成十八年度より、優秀教職員の表彰が加わり、

退職教頭という文字・言葉が更に遠退き置き去りにされている感を抱かざるを得ない。

(四) 地域社会・教育貢献活動

・地域や各種団体の要請に応じて、個人またはグループで、データービス、抹茶親子教室、コーラス指導、絵手紙教室・愛のタオル運動・・・など活動している。

・教育ボランティア(学習支援、環境整備、クラブ活動支援)にも積極的に参加している。

東京都公立小学校 会長

(一) 会員数 四四名(平成二八年度)

(二) 組織の維持

・現職の副校長さんの大部分は、退職会の存在を知らない。そこで、現職副校長会の五月の「総会」・二月の「研究発表会」に参加し、退職会の存在を知らせる。また、七月頃に「現職副校長幹事会」に参加し、幹事の副校長さんを通して各支部の副校長さんに退職会の存在を知っていた。

・毎年二・四名の入会者はあるが、退職後五年間は再任用や嘱託員として週四日は勤務している。

(三) 入会のお誘い。

・昨年度初めての試み。
下記のような入会のお誘いを、三月に退職される副校長さんの勤務校に葉書で送付した。



参考例文

東京都公立小学校退職教頭・副校長会へのお誘い

この三月で激務に明け暮れた副校長職をご退職される皆様、再任用等でお仕事を続けられる皆様へ退職会への入会をご案内させていただきます。

私達は副校長として日々学校現場の最前線に立ち休みなく仕事を続けて参りました。その同じ努力を続けた副校長経験者同士が集い合い、退職後も連携、交流を続けて参りたいと思います。皆様の入会を心からお待ちしております。(下記に欄へ副校長先生のお考えをお書きいただき、ご連絡いただきたいと思います。)

東京都公立小学校退職教頭・副校長会

会長

いずれかの番号に○をおつけください

一、入会を希望する

二、入会するかどうか、後日返事をしたい ※

三、入会を希望しない

二に○をされた方には年に一度、入会のご案内を送らせていただきます。

※ 退職後数年経ってからの入会も認められております。

退職時所属 () 区・市立

() 小学校

お名前 ()

退職後(四月から)のご連絡先

住所(自宅・勤務先) いずれかに○印

〒 住所

東京都公立中学校 会長

(一) 会員数(平成二十九年四月現在)

・三三六名(昨年度より一二名減)平成二九年度入会者 十四名(全退教入会者 四五名)

(二) 年間の主な取り組み

(一) 会報の発行

(二) 幹事会

(三) 定期総会

(四) 研修旅行

(五) 自主研修

(六) 観桜会

(七) 全国公立学校退職教頭会事務手伝い等

(八) その他(東京都公立中学校副校長会定期総会への参加)

(三) 組織としての課題

・新規加入者の参加も増えてきてはいるが、会員総数の割には各会台の参加者が限定されつつある。

・教頭・副校長として経験してきたことを役立てる機会、場所。

・教育現場との交流の機会(現職副校長職務の現状理解等)。

・新しい教育に関する情報収集。

・教育機器の研修。

(四) その他(現職副校長の勤務実態)

・平成二八年度の東京都の実態調査では、実質勤務時間が一二時間以



上の副校長が八四・二%(その内十二、十四時間が六六%)。

・年次有給休暇の取得日数が一、五日が、五二・四%の現状である。

群馬県

会長

一 組織の維持

(一) 現状

本会は、会員の減少化と、高齢化に歯止めがかかりません。

(二) 対策

① 支部長不在の会員の対応。

② 新会員の加入促進を図る。

③ 県公立学校教頭会との連携を深め、新会員の加入に協力をお願いする。

二 会報

(一) 年2回発行している。

(二) 経費節約のため、印刷所に発注せず、自前の会報です。

(三) 内容

平成二八年度発行四五号・四六号の内容は、下記のとおりです。

四五号 「副会長就任あいさつ」「米寿のお祝い」「弓道で集中―心身健康に―」「会員の活動」「会員研修のお知らせ」「編集後記」

記

四六号 「太極拳事始」「水墨画と私」「ホント危ない高齢者運転、私の自衛手段」「計報」「編集後記」

三 福利厚生

「本会は、会員の親睦並びに福利厚生増進を図る」とともに、教育の振興寄与することを目的とする。」と会則にあるので、毎年宿泊研修を実施している。

平成二八年度は、夕食時は自由に話し合い、相互理解を深めた。夕食後は、全国大会のビデオを視聴し歓談した。

四 叙勲問題

私が入会した頃は、群馬県を四つのブロック(中毛・東毛・西毛・北毛)に分け「会報の発行」「研修」「福利厚生」「叙勲関係」の二つを担当した。次年度ローテーションで別の部門を担当した。しかし、ブロックが弱体化し、機能停止に陥った。現在は全部事務局が担当している。したがって、毎年継続的に実施しなければならないものが優先してしまふ。叙勲問題は優先順位は低い。



小規模退職教頭会の組織を生かして

一 組織の維持

会員の減少に伴い地区体制が整わなくなり、互いの意志疎通ができなくなっている。

平成二十七年から組織推進委員会を特設する役員に若い会員を選出し組織の充実を図る。

(一) 地区体制の維持

地区会員と親しく懇談する機会をつくる。(地区訪問五月八日・六月・七月休会になってしまった地区の復活を図る、ここ数年増えてきている地区の教退職者と懇談する機会を設定し、新しい地区づくりを推進する。

(二) 入会勧誘

① 平成二十七年現職教頭会理事會訪問 二月各地区の現職教頭会の理解と協力をお願いする。

② 退職予定者の学校へ事前に連絡し、ご苦勞様の手紙文を持って学校訪問する、北地区、南地区には郵送する。三月二八日

③ 入会案内四月二八日 慰勞會五月二八日
(年代の若い役員が發起人)

二 会報

年一回、従来のサイズからB5からA4に変更、会員のみなさんの教育提言や生き甲斐活動などの投稿は、本会の充実発展に貢献している、

三 叙勲要請活動

本会ができる要請活動を継続するために叙勲要請活動委員会を特設

・秋田県選出国會議員への要請訪問(平成二八年五月二六日陳情書持参)

訪問者 県退職教頭會顧問・会長・事務局

・地元後援會事務所訪問 國會事務所との取り次ぎを依頼 東京國會事務所宛要請訪問要項送付

・國會事務所より要請訪問を受理いただけることを確認

・組織として要請活動は継続することを共通理解する。

四 現職教頭會との連携

・現職教頭會会長と懇談(平成二九年一月六日) 今までの経緯や連携のあり方について

・現職教頭會理事會に出席(二月十六日) 県教育委員會訪問(平成二八年二月二日)

・教頭職に関わることで、教頭職を生かした退職後の地域社会への教育支援の有り方などについての要請訪問をする。

教育委員會から
の出席者教育庁義
務教育課課長、副主
幹管理班副主幹、副
主幹退職教頭會会
長、副会長、事務局
四名

・秋田県教育庁生涯
学習課生涯学習学
芸振興班訪問(平成
二八年八月八日)

・秋田市教育委員會生涯学習室訪問(三月十日、
五月十二日)

六 お祝いの會(平成二九年二月二四日)

・●●●氏・●●●氏 のご功績を称えて



地域ぐるみで学校を支えます！
学校も地域に貢献します！

「学校・家庭・地域連携総合推進事業」

◆学校支援地域本部 ◆放課後子ども教室

子どもたちを健やかに育むことや地域の活性化を図るため、学校と地域との窓口となる総括コーディネーターを育成し、地域学校協働活動を推進する。

※ 各市町村ごとに取り組み事になるので、是非地区毎の組織をしつかり構築してほしい旨、要望される。

○ 秋田市子ども未来部子ども育成課訪問
平成二八年二月二日(木)

放課後児童担当主席主査 ●●●様 他一名
退職教頭會 ●●●会長・●●●副会長・●●●事務局長

○ 秋田市教育委員會生涯学習室訪問
平成二九年三月十七日(金)

秋田市教育委員會生涯学習室室長 ●●●様
室長補佐 ●●●様 他 一名

退職教頭會 ●●●会長・●●●副会長・●●●事務局長
※市としては、これから考えることになる。当面は、福祉

保健部の福祉総務課が、特定非営利活動法人「あきた子どもネット」を金銭的にも支援しているので、生涯学習室でもその方向で考えたい。退教と秋田子ども

もネット、福祉総務課と生涯学習室とで二度顔を合わせてみてはどうか。

○秋田市教育委員會生涯学習室・福祉総務課・あきた子どもネット・退職教頭會合同の話し合い
平成二九年五月十二日(金)

※ 互いにやろうとしている事、やってきた事を紹介し合う。退教として、何が求められ、何が協力

できるのか等、話し合う。